

らほとんど3分程度で離陸できる。防災ヘリや消防ヘリでは（搬送能力は高いが）こうはいかない。

平成20年度の運航実績は、全要請数522件に対して出動件数は430件であった。運航距離では、20～30kmから60～70km程度が多いが、100kmを超えて運航することもある。まだ始まったばかりであるし、北海道は広大で、複数機が必要であることから、現状では止むを得ない。ドクターヘリ先進国のドイツでは、国中にくまなくヘリが配備され、15分ルールが確立している。時速200kmで飛行するので、およその距離は半径50km程度である。

ドクターヘリの効果は高く、効果判定が可能であった361例の内、有効と判定された症例は187例、51.8%に上った。

幸いなことに、国の予算で補助率が大幅に増え75%となったために、道内に新たに2機の導入が決まった。市立釧路総合病院を基地病院として道東地区に、旭川赤十字病院を基地病院として道北地区にそれぞれ就航した。この10月より運航を開始し、早くもその成果を発揮している。今後は3カ所のヘリの相互連携システムの確立、および他機関（防災、消防、警察、自衛隊、海上保安庁等）の大型ヘリとの連携など検討事項も多いが、いずれもある意味楽し

みな課題である。

最も大きな課題は、搭乗医師やナースの養成であろう。それが実現すれば、道南地区や稚内周辺にも導入の気運が高まると思われる。今後の医療人養成制度の動向に注目したいし、提言したいと考えている。

6. 終わりに

北海道の救急医療体制について、現在の悲惨な状況と、各地域の粘り強い取り組みを紹介したが、現地に赴き現場の諸先生やコメディカルの方々に接する毎に、崩壊を阻止しようとする真摯な姿勢に、いつも圧倒される思いである。こうした取り組み、努力が、一般住民の方々になかなか届かないのは大変残念なことである。しかし、やはりここは地道に各種事業を続けて、医師会や医療者の思いを浸透させるしかない。そのために、各地での市民公開フォーラムやイベントへの実施協力、さまざまなポスター、リーフレット、パンフレット等で情報発信することなどで、少しずつ啓発活動を続けて行きたいと思っている。

これからも、諸兄の貴重なご意見を是非賜りたい。

平成21年秋の叙勲・褒章受章者（北海道医師会員）

先般、平成21年秋の叙勲・褒章受章者が発表され、当会会員で以下の方々が叙勲の榮譽に浴されました。ここに受章者の方々のご功績をたたえ、謹んでご芳名を掲載させていただきます（敬称略）。
受章者各位には、心からお祝いを申し上げます。

◇瑞宝小綬章

佐野 文男 元札幌社会保険総合病院院長
保健衛生功労

◇瑞宝双光章

小野 道延 現小野医院院長
学校保健功労

◇瑞宝小綬章

田村 正秀 元北海道立衛生研究所所長
保健衛生功労

◇藍綬褒章

開田 吉廣 元自衛隊医療協力者(委託医師)
自衛隊協力功績